

福岡市総合計画審議会
第4回 都市の成長部会
会議録

日時 平成24年8月9日(木) 15時30分

場所 天神ビル11階 11号会議室

出席者（五十音順、敬称略）

小俣 郁雄

後藤 俊介

福田まもる

水城 四郎

山倉千賀子

甲斐 敏洋

後藤 太一

古川 清文

村上 樹人

小塩 正己

富永 周行

星野 裕志

矢田 信浩

福岡市総合計画審議会

第4回 都市の成長部会

〔平成24年8月9日（木）〕

開 会

1 開会

○星野部会長 それでは時間になりましたので、ただいまから福岡市総合計画審議会、第4回の都市の成長部会を開催いたします。

前回の第3回の部会からわずか1週間しかたっておりませんし、非常にお忙しい中おいでいただきまして、まだこれからおくれて来られる方もいらっしゃると思いますが、定刻になりましたのでスタートしたいと思います。

それでは、まず初めに事務局のほうから本日の資料についてご説明をお願いいたします。

○事務局（藤本） それでは、資料の確認をさせていただきます。

まず、資料1が今後のスケジュールです。本日が部会の4回目ということで、部会3の続きと部会3での修正案を審議いただきます。その後、総合調整委員会を経まして、第2回の総会にてパブコメを決議するという流れになっております。

次に、資料2と書いておりますのが総合計画の素案です。資料3が基本計画素案の中の空間構成目標です。資料4が総合計画素案の中の区のまちづくりの目標です。そして参考として、資料5が区の計画の経緯等についてというものです。

それから、その下に参考様式という形で、委員からご提出のありました意見を配付させていただいております。

それから、会議の資料ではありませんが、未定稿といたしまして、第3回の都市の成長部会の会議録を配付させていただいております。これについては内容を確認いただいて、修正がございましたら20日までに事務局にご連絡いただければと思います。

資料の説明は以上です。

2 審議（基本構想、基本計画）

○星野部会長 ありがとうございます。

今、お手元の資料について説明をいただきましたけれども、今日の第4回の部会の位置づけを資料1でご覧いただけますでしょうか。この部会は、パブリックコメントの前に4回、それからパブコメの後に2回予定されておりまして、全体で6回の部会の中の4回目の位置づけになります。この次の8月31日に第2回目の総会がありまして、そこ

で固めた案をもって9月9日からパブリックコメントをいたします。それを受けながら、後半、10月、11月と2回の部会を持って、最終的な策定に至るわけです。

今日の位置づけを見ていただきますと、1回目からこの部会の中で話し合われたことを一通り固めていただいて、総会でパブリックコメント前のドラフトをつくっていただき、それをもとにパブリックコメントでご意見をいただきながら、最後に修正していくという形になりますので、前半の非常に重要な会議になります。パブリックコメントの後に2回部会が予定されていることを思うとまだ修正の余地はあるのですが、できる限り今回、第4回目ですとところは修正をいただき、固めていただき、そして31日の第2回の総会に臨みたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

今回もそういうことでやるべきことが盛りだくさんでありますので、2時間半、18時の終了まで要領よくいきたいと思います。特に前回ここで少し問題になりました区の目標についても、少し時間をとって話したいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、今日の焦点を大きく3つに分けさせていただきます。前回と同じように、まずは資料2にある総合計画の基本構想と基本計画に基づいてお話をいただいて、その次が資料3の空間構成、そして資料4が区のまちづくり、この3つに分けてご審議をいただくことになります。

それでは、まずパート1といえますか、総合計画、基本構想と基本計画に基づいて、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（藤本） それでは、資料2についてご説明をさせていただきます。

1ページめくっていただきまして、右側に目次をつけております。後ほどご説明いたしますが、基本計画の前提という現状分析等が比較的前のほうにあったのを、総論の一番最後に持ってきております。これが構成上の変更の大きなところですよ。

次に、2ページ、3ページをお願いいたします。2ページの基本構想は少しご意見があったところで、アンダーラインを引いているところの文字を修正しておりますが、大きなところは2ページの都市像の1つのフレーズというのを、先日来のご意見を踏まえて1つの案をご提出させていただきます。

次に、6ページ、7ページをお願いいたします。6ページが基本計画策定の趣旨については特にご意見がなかったので修正しておりません。7ページは、計画の前提を後ろに持ってまいりましたので、都市経営の基本戦略がここに来ております。このアンダーラインを引いておりますところにつきましては、「アジアの創造都市」の下の図のところ創造都市についての中身をもう少し詳しく説明をということでございましたので、アンダーラインの2段目の中ほどのように、「多様な人材の創造力で生活の価値や経済的な価値を創造し、生活の質の向上と都市の成長を循環させ、アジアに貢献し、ともに

成長していく」という定義のような形で「アジアの創造都市」の説明を追加しております。また、後半のほうの福岡都市圏の広域のお話のご説明を、少し上に入れているところです。

8ページ、9ページをお願いいたします。8ページにつきましては、人材について少し分厚くしているところをごさいますて、専門学校についての記述を置いたり、あと若者と子供を分けて記述したりしております。9ページの都市圏が九州・日本の成長を牽引するということなんですが、実は前回の資料の中では、「福岡市に求められる役割」ということで前提の最後のところに入っていたものです。それについては委員からかなりご意見があつて、「九州における役割」とか「日本における役割」と整理し直したほうがよかろうということで、整理いたしました。整理したところ、中身が戦略の中の「九州・日本の成長を牽引する」のところと非常に重なっておりましたので、この一部という形で整理をし直しています。以前は「九州においてこういったことが求められています」となっておりましたが、「こういう役割を担っていきます」ということで、戦略という位置づけに変えております。

そして、「日本における役割」の下の丸については、首都機能のバックアップのところだけが強調して書いてあったんですが、中身としてはそれよりも、東京にある企業の本社機能など首都圏に集中するいろいろな機能の受け皿になる役割という形で整理をし直しております。

次に、10ページ、11ページをお願いいたします。こちらでの大きな変更点は、計画の目標の中の（3）区のまちづくりの目標というところですが、これについては、もともと分野別目標と空間構成目標から区のところから切り出したというご説明をしておりましたが、それを区においての地域のまちづくりの目標ということで性格を変えさせていただいております。これについては後ほどこの中身を説明するとき、改めて詳しく説明させていただきます。

次に12ページ以降は、計画の前提ということで前にあったものをこの位置に持ってきております。中身はずっと変えておりませんで、27ページにご指摘があった博多港についての解説と、福岡市を中心とした地図の中にあるソウルの首都圏ですとか東京の東京圏という範囲についての数字を入れ直しているところです。

総論は以上でございまして、引き続き28ページ以降が計画の各論になります。

○星野部会長 一たん切りましょう。基本構想と基本計画のところで一度とめていただいて、後で目標に入ってくださいませか。ありがとうございました。

それでは今、1ページ目の基本構想から基本計画についてお話をいただきましたが、まず最初の部分、基本構想について何かご意見はいかがでしょうか。

この基本構想のところは、何人かの方から、四つの都市像というのをわかりやすく一つにしてはどうかとご意見があつて、「住みやすい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡」ということでくくっていただきました。これが初めてこういう形で出てきたということで、このような形で都市像をワンフレーズにまとめるということでもよろしいでしょうか。

前日もコメントさせていただきましたけれども、四つの要素の中からいろいろな共通項を抜き出して1つのフレーズをつくったのではなく、違う視点で、市民目線で見ても非常にわかりやすいフレーズになっているのではないかと思いますけれども、これでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○星野部会長 よろしければ、この基本構想の部分はこれでご承認いただいたということで、よろしく願いいたします。

次に、資料2をご覧くださいませるか。6ページ目から27ページ目が基本計画総論ですが、下線部分で修正いただいたところ、あるいは前回ありました求められる役割をもう少し明確にここで明示いただきました。また、大きくは前提になる部分を後ろに回すということになりました。この基本計画の総論について、何かご意見いかがでしょうか。

○委員 確認でございますけれども、7ページの「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアの創造都市」と、都市像を集約した先ほどの「住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡」との関係は、どうなるのでしょうか。この「交流拠点都市」を具体的に別な表現にしたのが、「アジアの創造都市」なのか、そこを確認したいと思います。

○事務局（藤本） 今のところですが、こちらの基本計画の「アジアの創造都市」については、目標として10年間でこういう都市をつくっていきますということです。基本構想の「アジアの交流拠点都市」のほうは、期限を定めずに、福岡市は基本的にこういう都市になっていきますということで、長期にわたってめざす目標です。その中で当面の10年間は「創造都市」をめざすという切り分けをさせていただいております。

○星野部会長 よろしいですか。

○委員 はい、わかりました。

○星野部会長 構成も前回から随分変わったかと思うんですけれども、目標とする部分が最初に来て、後ろのほうに前提あるいは現状が来て、大分わかりやすくなったと思います。ご意見いかがでしょう。

今回、随分大きく構成が変わってきていますし、あるいは明確になった部分も多いと思うんですけれども、何かコメントはいかがですか。

○委員 一言で言うと、とてもよくなったと思っています。非常に読みやすくなったし論旨も明快になっていると思ったので、特につけ加えたりすることはございません。

○星野部会長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

先ほど申し上げましたけれども、これが最終回ではなくて、総会を経てパブリックコメントに参ります。まとめていただきたいと思っておりますけれども、パブリックコメントの後に2回の部会で最終的な修正が可能です。今回固めていただいて、さらにお気づきになるところがありましたら、ご指摘いただければと思います。

ここまでで基本構想と基本計画総論についてお話をいただきました。それでは藤本課長から、それぞれの目標についてご説明いただけますでしょうか。今までのところ、基本構想と基本計画総論については認めていただいたということで、次に行かせていただきます。よろしくをお願いします。

○事務局（藤本） それでは計画各論ということで、28ページからご説明いたします。目標1から4のところは主に生活の部会のほうでということですが、こちらでもご説明いたします。

28ページの大きな一つ目のところ、「めざす姿」の中にアンダーラインが入っていないんですが、「めざす姿をあらわす指標」を入れております。生活の質の部会のほうで、それぞれの施策ごとの指標ではなくて、目標をあらわすところにも指標となる数字があったほうがいいのではないかというご指摘がございまして、当然、全部は網羅いたしません、大きなところをあらわす数字というのをここに置かせていただいております。

それと、30ページを見ていただいて、ここには書いてはいないんですが、施策が例えば1-1でしたら「ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり」と数字だけの構成でできているので、少しわかりにくいというご指摘をいただいております。今、その間に施策の説明、方向性を入れる方向で検討いたしておりますが、パブリックコメントまでにそこはうまくまとめられないので、パブリックコメントまではこの形で、そこでのご意見も踏まえた形で、少し説明をつけ加えたいと思っております。それは全体共通です。

そして、32ページ、目標2については、特に「めざす姿をあらわす指標」を入れてい

るところです。

そして、34ページの目標3のところ、「めざす姿をあらわす指標」は全部入れておりますが、「現状と課題」の中に、委員から、空間構成のところ、少し防災についてのご指摘をいただきましたので、ライフラインとなる幹線道路の話や災害に強い都市基盤整備みたいなことを、少しこちらのほうに入れております。また、安心・安全以外に、景観等のことで屋外広告物のことなどを追加しているところです。

そして、38ページが目標4では特に「めざす姿をあらわす指標」を追加しているところです。

そして、42ページです。ここからが主に都市の成長に関するところで、「めざす姿をあらわす指標」といたしましては、全体を人が引きつけているというところで、入込観光客数を指標としたらどうかということで挙げています。その他は特に変えているところはございません。

ご指摘いただいた指標の項目について、市内の原局において最新の数字になっているかなどを、今見直しているところですが、反映できていないところがまだあるところをご了解いただけたらと思います。

それと46ページ、目標6ですが、こちらについては、ご指摘があった「めざす姿」の中にイノベーションですとかサービスについての記述を入れております。そして「めざす姿をあらわす指標」としては、経済全体のことということでしたので、市内総生産額を指標として入れております。

48ページ、目標7は、開業の場所を少し移した関係で、移し漏れていましたので、今回ここに入れ直しております。

50ページの目標8のところについては、アジアとの経済ということで、「めざす姿をあらわす指標」としては、福岡空港と博多港の貿易額を掲げております。

51ページの施策8-4の指標のところの現状値は、外国航路船舶の乗降人員とかを2010年のデータにしております。2011年は特異的に数字が変わっていたので2010年を使ったほうがいだろうということで、現状値を変えております。

52ページの施策8-7も同様に、2010年を現状値という形で置かせていただいております。

それと、施策8-8で、世界の人にも暮らしやすいまちづくりということで、先日、外国人の市職員への採用の件で確認があったんですが、今現在、福岡市の職員の採用は国籍条項があって、公の権力の行使に係るところには配属されないという条件つきで採用しておりますので、そういう意味では完全に日本人と同じではないですが、少し制限はあるにしろ、基本的には門戸を開いています。そこは訂正させていただきます。

以上で説明を終わります。

○星野部会長 はい、ありがとうございます。今、28ページ目から52ページ目までの計画の各論について修正点をお話しいただきました。

後ほど、委員からのご質問について少し事務局から回答をいただきます。当審議会は生活の質部会と都市の成長部会という二つの部会に分かれておりまして、生活の質部会が目標1から4を、こちらの都市の成長部会は目標5から8を中心にそれぞれ審議しておりますけれども、全体についてここで話し合い、コメントをいただきたいと思いますので、これから目標1から4の部分についても何かありましたらお話しいただきたいと思います。

まず、生活の質部会が主に担当している目標1から4について、何かありましたらコメントをいただきたいと思います。今お話しいただきましたように、生活の質部会から提案があって、全体をあらわすそれぞれの目標一つごとの指標をつけるという構成にしているように思います。あとのところはあまり大きな修正はないようですが、いかがでしょうか。1から4ですね。

まだ指標の入っていないところは、どのタイミングで全部そろえることになりますか。

○事務局（藤本） 31日の総会の際にはそろえたいと思っております。

○星野部会長 わかりました。

それでは、目標1から4で何かお気づきの点はおありでしょうか。

〔「なし」の声あり〕

○星野部会長 よろしければ、この都市の成長部会が主に担当している目標5から8について、少しお目通しいただきまして、お気づきの点があったらご提案いただきたいと思います。

目標5として「めざす姿をあらわす指標」を一本化して、入込観光客数として1,642万人という数字が挙げられていますけれども、このようにくくってよろしいでしょうか。

○委員 例えば京都の場合で言うと、日帰りのお客様が落とされるお金が6,000円ぐらいで、宿泊が2万4、5千円だと思うんですよ。だから4倍ぐらい違うんです。京都はたしか5,000万人という平成22年目標を21年にクリアしたと記憶していますが、トータルの人員はそれでいいんですけれども、日帰りと宿泊それぞれで明確な目標を持ったほうがいいと思います。京都の6,000円というのは高く、福岡の場合はそんなにならないと思います。例えばそれが2,500円なのか3,000円なのか、ちょっとデータは知りませんが、宿泊したら1万5、6千円だったら、総額が全く違ってきます。だから、そこも入

れたほうがいいかなと思います。

それと、この間言ったように、国際会議は日本で第2位とか言っていますが、学会とか普通の会議のほうが圧倒的に多いわけです。MICEという意味からすると、外国企業だけではなく国内の企業のミーティングとか、特に九大さんとか大学が多くて学会もあるから、そこらあたりのほうの指標も要るかなと思っています。

○事務局（藤本） ご指摘ありがとうございます。コンベンションの件数につきましては、今、担当課のほうと協議をしているところです。ただ、国際コンベンションの開催件数は国の機関で決めたものがあるのではぱっと出しやすいんですが、ちょっと定義がなくて、今これが出せませんというのがありません。ただ確かに、国際でないコンベンションというのはボリュームとして大きいところでもあるので、何かないかというのを検討はしております。

○委員 学会とか。学会はお金になるんですけれども。

○事務局（藤本） はい。全体では行政側が把握できずにやられているものがたくさんあるんですが、それを一概にはなかなか把握できないものですから。把握できる数字で、もし可能であれば、追加するような形で何らかのものを考えたいとは思っております。

それと、先ほどの宿泊者数につきましては、こちらの全体の目標のほうに掲げるか、個別の施策側に掲げるかはあれですが、それも含めてご検討させていただくということでもよろしいでしょうか。

○星野部会長 委員から前回、MICEというとらえ方は必ずしも国際人流だけではないとご提議いただきましたので、ぜひMICE全体が把握できるよう、数字もそうですし、考え方というのを少し盛り込んで工夫していただければと思います。ありがとうございます。

○委員 5のところ気づいた点が3点あります。

まず、44ページの施策5-2の「緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり」というところです。これは施策としてどういう目標値を持ったらいいいのかという観点では難しいと思いますが、都心部の緑化率というんですか、特にヨーロッパの首都、古都に行ったときの並木の多さというんですかね、ものすごく癒されます。大濠公園、舞鶴城をニューヨークのセントラルパークみたいな形でイメージされていると思いますが、それ以外のケヤキ通りみたいな街路樹の緑化率というのが、何か福岡で把握できないかというのを

私はいつも思っています。これが入れるか入れられないか。数値でとらえるとなったときは非常に難しいなと思っていますので、都心部の緑化率というのが何かできないかなというのの一つです。

それともう一点、5-3の「やさしいおもてなし環境づくり」というところは「検討中」とありますが、ここに多言語表示率というんですか、今かなりバスの中とかやっていますけれども、多言語の表示率がどれくらいかというのがあればいいのかなと思います。

それともう一点は回遊性のところで、この10年間で見たら実現は非常に難しいと思うんですけれども、有識者のインタビューなんかを見ていまして、業務としての港湾と人流としての港湾があると思います。いわゆるウォーターフロントですよ。博多埠頭から須崎埠頭、それから天神地区にかけて、人が気楽に港に行くための交通網を10年間で検討する、そういうような文言が少し入りませんか。将来に向けて、これは10年間でやるというのは非常に難しいと思うんですけれども、何かそういうことが入れればいいのかなということです。

以上、3点です。

○事務局（藤本） ありがとうございます。

今の関係で、少し補足でというか、都心の緑化については、40ページの施策4-4のところに緑の創出全体の話があります。都心ではなくて、身近な緑への満足度という住んでいる地域のことになってしまうんですが、市民の満足度の調査という形で設定しているというところが一点です。

○委員 4-4ですね。

○事務局（藤本） こういった形で、市民の方が「緑が多いな」と思うという点での数をとっているところです。

○委員 はい。わかりました。

○事務局（藤本） 多言語表示率については、検討させていただきます。

ウォーターフロントと天神、博多との回遊性のところにつきましては、5-3で回遊性ということで入れております。それから後ほど出てきますが、資料3の空間構成目標の中で、58ページの「交通体系の方向性」というところで、都心部における回遊性の向上というのが入っておりまして、青い丸で博多埠頭、中央埠頭、天神、博多駅の間の回

遊性の方向性については、ここで書かせていただくことにしています。まだ、何々を検討するみたいなどころには踏み込んでいませんが。

○委員 天神と博多駅を含めての回遊性というのはかなり上がっていると思うんですね。ただ港、海に向かっての回遊性というのはゼロに等しいので、その部分が少し入れられないかなということです。

○委員 40ページの施策4-2の「公共交通を主軸とした総合交通体系の構築」で、1日当たりの鉄道・バス乗車人員について108.5万人を117万人と書いていますけれども、まちを活性化させるという観点での10年後の目標とすれば、たったこれだけの人員を増やすとかいう内容ではおかしいのではないかなと思うんです。例えば富山市の例で言えば、商店街のほうに出るときはたしか100円で、郊外のショッピングモールに行くときは普通の料金を取るそうで、高齢化がもっと進んで、おじいちゃん、おばあちゃんたちとか我々も含めて、西新のまちでも香椎でもいいんですけれども、天神だけじゃなくても公共交通なら100円で来られるぐらいの整備をして、1.5倍ぐらいとかにする。そうすると病院に行くのにも、お買い物をするのにもいいじゃないですか。10年だから、それぐらいのものが要るのではないかというのが一つです。

もう一つは、44ページの5-2の「緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり」ということで、これは舞鶴公園と大濠公園を合体してセントラルパーク構想があるからそうしたのかもしれませんが、弘前の桜祭りならいざ知らず、福岡城さくらまつりの来場者数を24万人から40万人にするのが10年の施策及び成果指標というのはちょっと恥ずかしいのではないですか。そこまで有名な桜祭りでもないんですけれども。公園を活性化するという大きなビジョンがあるからそうなんだと言えばそうなんだけど、桜を見に行く人数を増やす、これが総合計画の施策及び成果指標だと言われたら寂しい気がするんですけども、いかがでしょうか。

○星野部会長 前回からも山笠を入れたほうがいいのかとかいうことが出ていました。緑と歴史・文化ということにこだわられた結果、おそらくセントラルパークと言われていたこのあたりを何とか使いたいのもかもしれませんけれども、少しこれはお考えいただいたほうが良いと思いますね。

それと今、言われていた運賃体系のことですけれども、前回、空間構成の中で、ゾーン制を敷くべきではないかという意見があり、例えば均一料金で移動できるような仕組みも提案されていたようです。これについても後でコメントいただきます。

あと、先ほど委員がコメントされた中で、多言語対応というのは非常にいい指摘を

いただいたと思うんです。目標5で「磨かれた魅力に、さまざまな人が引きつけられてくる」ということであれば、海外の方が福岡に来て、多言語対応の表示によって居心地のよさを感じるということですね。今いろいろと推し進めようとしているところなので、指標としてどの程度進むのか挙げていただくのもそうですし、多言語対応をきちんと現状と課題の中で取り上げていただくことが必要なと感じました。

お二人のコメントについて、藤本さん、お願いします。

○事務局（藤本） 多言語対応はおっしゃるとおり大事なところですので、考えていきたいと思えます。

それから公共交通への言及が少ないのではないかとのご指摘と、ゾーン制の話については後ほどご説明しようかと思っておりました。今のところは修正できていませんし、実際にゾーン制とかいうところはなかなかすぐにはできないところもあるんですが、先ほどの資料3、空間構成目標の最後の58ページに、新しい仕組みを検討するといったところについては少し書き込めるかどうか、今から検討していこうと思います。今の段階では入っておりませんが、方向性としては検討していきたいと思っています。

それから44ページ、施策5-2の桜祭りのところなんですが、施策検討用資料の施策の方向性には、「都心に近い貴重な緑地空間として広く市民に親しまれている大濠公園、舞鶴公園の一体的な活用を図り、市民の憩いと集客の拠点づくりを進めます」という解説がついております。先ほど申し上げたように、この施策5-2と指標だけではわかりにくいので、実際にパブリックコメントを受けた後、その間にそういった形で説明を入れて、「こういうことをやるので、指標としてはこれにします」という形に整理していきたいと考えております。

○星野部会長 資料として残すということは、結局、桜祭りは最後まで残るんですか。

○事務局（藤本） その説明を入れます。この指標については、舞鶴公園に来る人をふだんは数えないものですから、どのぐらい来てもらったかというのが今は桜祭りしかないということで残しているところなんです。それで指標と数字だけになると、さっきおっしゃったように「施策はこれだけなのか」というふうに見えてしまいますが、説明で「こういった活用をしていきます」という言葉が入った上でこの数字を見ていただいたら、それほど違和感はないのではないかと思います。それでもまだおかしいということであれば、外すなりのご検討をいただければと思います。

○星野部会長 わかりました。それはそのときに検討させてください。確かに大濠公園に

集まれる、散歩される、ジョギングされる方は多くて、この公園というのは非常にいいと思うんですけども、なかなか数字がとれない。その結果、桜祭りの数字になってしまったんだと思うんですけども、これはあまりにもインパクトがなさ過ぎます。新しい説明で十分語られているようであれば残していただきますけれども、そうでなければご意見のように、福岡が人を集められるという指標としては、山笠なりほかのことも検討いただいたほうがいいかもしれません。

それから、目標6と7は前回、前々回からわかりづらいというお話がありまして、この順番を入れかえた上で、かつ、目標6のほうは福岡の経済活動と大きくとらえて、7のほうは特に新規の産業というところにフォーカスを当てて、差別化してここに挙げていただいたはずですけども、これについていかがでしょうか。

ちょっと小さなところですけども、目標6で市内総生産額が2009年「70,740億円」という数字が8にも出てきますが、これは「7兆740億円」という、もう少しわかりやすい表記にさせていただくよう先ほどお願いしたところです。大きく修正しているところはないんですけども、何かありますか。お願いします。

○委員 確認ですが、46ページ、おっしゃった目標6の2番「現状と課題」の⑥の記載についてです。農林水産業の関係で、上2行に、遊休農地や荒廃森林が顕在化していると書かれていますが、47ページの施策を見ますと、特段、森林関係の目標施策というのは設けてありません。さきにありました水害のこと等を考えますと、森林というのは守らないといけないんだろうなと思っています。それから森林について、先ほど福岡県全体というお話もありましたが、外資が入ってきて買い上げるような話とか、いろいろありますので、そういうことを考えたときに、ここに何かあったほうがいいのかと考えていますが、いかがですか。

○事務局（藤本） 施策の方向性で、国土保全とか多面的機能の発揮ということで、文章を入れる際には、必ず森林のところについてしっかり入れて、その上で、数字を追加するかどうかというのを検討します。いずれにしろ、この施策固まりの中で、森林についてきっちり見えるような形にしたいと思います。

○事務局（光山） 緑そのものの保全については目標4のほうになります。例えば、保全そのものだと40ページの施策4-4「生物多様性の保全と緑の創出」の中で整理をしていく必要もあるのかなと思っています。先ほどの施策はどちらかというと業の振興になりますので、今ご指摘のご意見については、どちらで整理をしたほうがいいのかということを検討させていただきたいと思っています。

○星野部会長 目標6の④の雇用創出策のところ、「新たな企業の立地をすることは即効性のある雇用創出策であり、地域活性化につながるけれども、企業誘致をめぐる都市間競争は激化している」と非常に客観的に書かれているんですけども、あまり福岡と直接関係ないようなので、何かこの表現を、もう少し福岡に照らして考えられないのかなと思うんですけども、いかがなものでしょうか。これを見ると結局、雇用創出というのは非常に重要だと認識していながら、何もできていないように感じるんですけども、いかがでしょう。

○事務局（藤本） 企業の立地についてはいろいろな取り組みを実際にやっているところなんですけれども、ここについては課題ということで、非常に環境が厳しくなっているというところだけを今は書いていますので、そこを実際に福岡がどうかに触れるということですか。

○星野部会長 若干入れられたほうが良いと思うんです。

○事務局（藤本） そこは少し、先生のご指導もいただきながら考えてみたいと思います。

○星野部会長 ほかに、目標7・8でいかがでしょうか。7は特に、特定の産業を中心としながら雇用を創出していくような努力、あるいは新たな産業を立ち上げる努力という目標になります。いかがでしょう。

○委員 先般、大学もそうですけどということでしたが、役所もそうですし我々の民間でも、女性の活躍の場というか、管理職にするということについてはごくごく少ないので、例えば管理職の30%を女性にするとか、そういうのを入れたらいかがでしょう。10年後と言わず、3年後でも4年後でもそうなるべきだと思うんです。世界的な流れはそうですよね。難しいですか。

○星野部会長 前回、委員からも、施策7-5の「起業者に占める女性の割合」というよりは、むしろ企業内の女性の割合だとかを入れるべきではないかというご指摘をいただきましたし、女性の活性化について文章の中ということだったんですけども、今のところは特に追加されていないですね。

○事務局（藤本） それについては少し検討しているところですが、現状で申しますと、

例えば、福岡市であれば女性の管理職をどのぐらいの目標という形で掲げたりというのはあるんですが、それを福岡市の企業さん全体の中でどうというのは、現状も数字として持っていないというか、それぞれの企業さんに聞かないとわからないところもあるので……。

○委員 例えば、中小企業協会とか……。

○事務局（藤本） 多分、それぞれの団体ごとならある程度あるかもしれないんですが、入られていない企業さんとかもあるので、なかなか全体を網羅するのは難しくて、どんなふうにしたらいいだろうかと考えているところです。

あと、先ほどからほかのところもそうなんですが、アウトカム指標でやるとどうしてもわからないところがあって、そういったところについては施策でこれをやりますとか、アウトプットの指標でこういったことを何人ぐらいに対してやるとかいうので変えることも含めて、少し検討します。方向性としてはアウトカムでいくんですが、それだとしても数字が把握できないものが多くなってしまいますので、文章で書くということも含めて検討したいと思います。

○委員 6のところ、46ページの「めざす姿」の丸の4番目は、「福岡都市圏全体の経済が活性化しており、成長分野の企業のみならず、中小企業においても多くの雇用の場が創出され」となっていますが、ここを「成長分野の企業のみならず、既存産業分野においても中小企業に多くの場が」と、両面入れておいたほうがいいのではないですかね。

○事務局（藤本） そうします。

○委員 それともう一点は、6の「現状と課題」のところ、「卸売業・小売業は事業所・従業者とも減少する傾向にある中、新産業が芽生えてきています」とあります。経済活動を活発にしていくことについて施策6に入れるとしたら、6-3になるのかなと思うのですが、いわゆる商流の部分の活性化ですね。再構築と言ったら語弊がありますがけれども、いわゆる卸売業・小売業の部分を底上げするなりの文言があって、既存の産業についても10年の中で活性化して増えていっていますということをごどこかに入れておいたほうがいいのではないかと思います。この6についてはですね。

それと7のところは、文化芸術活動になるのか、商売のところになるのかわかりませんが、今3回目になったのですかね、アジアコレクションですね。ゲームとかの部分はいろいろ出ていますが、ファッション部門のアジアコレクションというのをもう少しP

Rして、「一つの産業までに」という言葉を入れておいたほうがいいのかなと思います。入れるとしたらどこに入るのかなと思っていたのですが、文化芸術でもあり、産業としての商売の部門でもあり、両面あると思います。アジア、中国・韓国との共同ファッションの推進とかね。

○事務局（藤本） 今ご指摘のところにつきましても、施策7-3で一応、「個人の才能が成長を生む創造産業の振興」とさせていただいているんですが、これは施策検討用資料の文章のほうでは、「ゲームをはじめとするデジタルコンテンツやファッション、映画、音楽など」という形で、この説明の中にファッションというのを入れたいと思っております。

○委員 この7-3の中に入るわけですね。

開催をもう少し大々的にやるということの一つの指標で持ってもいいと思いますよね。アジアとの連動については大連や上海ともやっていますよね。ですから、そういうような開催頻度とかも、人が集まる、人が出ていく、商売が繁盛するということ、言葉だけではなくて一つの指標として入れてもいいのかなというふうに思います。まあ、下の言葉だけでいくというなら、それはそれでもいいですけどね。

○星野部会長 特に今ご指摘いただいたところは、施策7-2の「文化芸術活動など創造的活動の振興」は、以前は演劇だとか文化活動を支える市民ということで、あまり接していない市民の割合というのがここに二つあったのが目標1のほうに移ったと思うんです。例えばここにもう少し、今、委員から具体的にお話をいただいたようなアジアとのイベントの開催回数だとか、それを指標の中に入れてもいいですよ。例えば韓国の映画祭をやってみたりとか、そういう試みを幾つかされているようなので、それが増えていくというのは指標の中に入れてもいいのではないかと思います。

ちょっとわかりづらいのは、目標7のところを一新くりにしためざす姿の指標です。有業者数に占める起業者の割合が2007年度は8.9%とあるんですけども、この8.9%というのはどういうふうに読めばいいんですか。例えば福岡は日本全国の中でも非常にアントレプレナー志向の人が多く都市で、だからこの8.9%というのは非常に高いレベルにあって、かつ伸びていくというふうに見るんですか。これはどういうふうに読めばいいのでしょうか。

○事務局（藤本） これはたしか、あまり高い数字ではなかったように記憶しているんですが……。今持ち合わせませんので、確認してまいります。

これ自体は新たに、いわゆる自営業主、家族従業者、雇用者で、起業して何年以内の人の割合ということで、今回探してきた数値です。今現在は大都市比較で20都市中11位ということで、高くも低くもないぐらいの段階にありますので、それを上げていこうという設定です。

○星野部会長 なるほど。ただ有業者数と自営業者の中で、起業者数の割合ってそんなに突出して上がっていくものでもないように思うんですけどね。ですから、指標として目標7全体をくくるのに適切なかどうか、それをご検討いただけますか。お願いします。

○事務局（藤本） ここについては、今回とりあえずこれを出しておりますが、ほかにふさわしいものとかもしあれば、ご意見いただければと思います。

○星野部会長 いかがでしょう。この目標7の「創造的活動が活発で、多様な人材が新しい価値を生み出している福岡」を示す指標について、いいアイデアはありませんでしょうか。

○委員 私が思っていることだけ申し上げますと、知的財産権の数というのははかれると思うので、それが国際か国内かは別として、特許の数とか商標登録とか、そういったものというのがあるのかなと思います。芸術活動はカバーしきれないなと思っているんですが、それはあるのかなと思っています。先ほど事務局の藤本さんから説明がありましたが、データがとれる・とれないというのはあるにしろ、国際比較できるかどうかというのが多分すごく大事で、国内第何位だけの議論ではなく、外国の方がご覧になって、「なるほど、福岡はこういう指標を立てているんだな」と思える目線でいこうとすると、知財の話というのは説得力があるのかなと思った次第です。

○星野部会長 ありがとうございます。先ほどもお話ししましたように、目標6と7については、目標6は大きく福岡の経済とし、目標7については特定の産業、クリエイティブな産業を中心に、どういうふうに福岡をフォーカスしていくかという切り分けのはずです。例えば単に商店などが増えるというより、クリエイティブな産業ということに特にフォーカスを当てているので、今、ご指摘いただいた、例えば知的財産権だとかいうものであれば、この7にふさわしいかと思いますので、それも含めてご検討をお願いします。

最後に、7から8ですね。特に「国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている福岡」、これについてはいかがでしょうか。「現状と課題」については下線もありま

せんので、前回ご意見いただいたところから修正はないんですけれども、特に指標も含めて、ご意見いただけますでしょうか。

施策8-3の「国際的なビジネス交流の促進」が貿易額ではかられることについて、先ほどちょっと、ほかにもう少しいいものがないかという話をしていたんです。先ほどの話とも少しかぶってきますけれども、この国際的なビジネス交流が促進されている指標として、何か適切なものはありますでしょうか。

○委員 銀行の送金額とか、そういうものも一つでしょうし、それから駐在員というのか、外国人のオフィスクラークというか、働いている支店とか人数、これもそういうことになると思います。

○星野部会長 今ご指摘いただいた、何か具体的なビジネスにかかわるトランザクションの数というのは適切かもしれませんね。

○委員 外国人労働者の雇用数ということはまさにそうですよね。とにかくアジア、世界中の人たちが福岡でたくさん働いているとなれば、これはビジネス交流をあらゆる最たるもので、今、例えば1,000人いるのが1万人になれば、少し国際都市と言えるかなとは思うんですけどね。

○星野部会長 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

○委員 今のとダブりますが、指標として、外為の取扱金額の推移、増加率ですね。それと、これは言葉で出すのはできても、実際に企業に聞いてみて本音を言うかどうかというのはありますが、九州決済額ですね。大手の商社というのはほとんどが東京決済ですよ。ですから、地場商社及び地場のメーカーでの九州決済額の増加、それが一番代表していると思うのですが、その数値はどうとったらいいのかなわかりません。各企業に聞いても、ほんとうのことは言わないでしょうからね。

それと、外国人の就労者数はもう全部出ているんですよ。どこかに出てきましたよね。

○事務局（藤本） 就労のビザを持っている外国人の数というのはあります。

○委員 どこかにこのデータがありましたかね。

○事務局（藤本） 以前の指標で使っていたので、現状のときにご説明をしたと思うんですが、今回の新しい指標では入れていないかと思えます。

○委員 ああ、次のページ。

○事務局（藤本） すみません、入っていました。

○星野部会長 この最後のページの8-8の「アジアをはじめ世界の人にも暮らしやすいまちづくり」の指標というのはなかなかとりづらいかと思うんですけれども、どういうことを想定していらっしゃるんですか。まだないからブランクになっているのかと思うんですけれども。

○事務局（藤本） まだお答えできるところまで行っておりませんので、もう少し検討させてください。

○星野部会長 例えばインターナショナルスクール（F I S）以外にも、外国人の受け入れについて何か指標になるものってあるんでしょうか。普通の公立学校で外国人を受け入れる際の指標ですね。おそらく「暮らしやすい」ということになると、そういったところに具体的な数が出てくる必要があると思うんです。光山部長、お願いします。

○事務局（光山） 公立学校に学ばれている外国の方の生徒数というのは当然把握しています。あとF I Sの生徒数というのも確かに把握することが可能だと思いますけれども、そこら辺の数字を目標として掲げて、どういった施策で上げていけるのかといったところも含めて、設定したほうがいいのかどうか、よく検討させていただく必要があるかと思えます。

○星野部会長 公立の小学校、中学校について、特に福岡市として外国人の学童の受け入れ校という形はとっていらっしゃるんでしょうか。

○事務局（光山） 基本的には、お住まいになられているところの公立学校で受け入れていくというのが原則です。

○星野部会長 なるほど。では、特に指定校のようなものはないんですね。

○事務局（光山） はい、そうです。

○星野部会長 わかりました。

今、目標の1から8までご覧いただきましたけれども、追加はよろしいでしょうか。お願いします。

○委員 追加ではないんですけれども、よろしいですか。

ちょっと前回欠席してしまいまして、議事録は拝見したんですが、多分議論されていないと思うんです。もしされていたら、されていたということで打ち消していただいて構わないんですが、全体を通して二つ気になっています。

一つは、さっきもちょっと申し上げた指標の客観性というんですか、国際比較できる指標ということ考えたときに、この成長の部会ではないんですけれども、前半の部会がすべて市民の満足度という形になっていて、よそと比べようがない形になっている。多分いろいろな議論があった結果こうなっているんだと思うんですが、ここは頑張って、客観性のある数値に先方の部会でしてもらったほうがいいのではないかと思ったんです。よその部会の話で、ここではないのかもしれないんですけれども。

もう一つが、基本計画のところの文言が非常によくなって、わかりやすくなりましたし、主体的に「何とかします」「いきます」「めざします」と言い切りになったのに対して、八つの各論に行くと、非常に客観的な記述に戻っている。この基本計画は10年間の目標や施策としての体系を示していて、当然その先に4年間の実施計画があって、さらには単年度の予算、事業計画があるという構造を理解した上で、どの目標でもいいんですが、「現状と課題」のところで書いてあることと、その後の「施策及び成果指標」で書いてある間を、相当、頭の中で補完しないと読み取れないなと思っています。具体的な単年度の話とか4年ものは、当然、実務のそれぞれの行政担当のところで詰めて、情勢の変化に合わせてながら仕事をされていくというのは当然だと思うんですが、10年間の政策の方向性というものがあ程度文章化されているべきではないかと私としては考えています。

具体的に言わないと、皆さんから何を言っているのかと思われるかもしれないので、例えば目標8で申し上げると、2番の「現状と課題」の①で「都心部の機能強化が重要であり、都市機能に磨きをかけていく必要があります」とあります。「必要があります」という記述で、「磨きをかけます」とか「強化します」という記述はないです。ただ、施策8-1に行くと「都心部の機能強化」になっていて、ここは「都心部の機能を強化します」というふうに意思が読み取れるんですね。肝心の一文が抜けていて、問題認識の次の瞬間に施策の一文プラス目標値に飛んでいるというところに、ちょっと違和

感があります。

直し方としては、「現状と課題」のところでは言葉を、多分、施策の方向性とかにするのかなと思ったんですけども、「めざします」というように全部末尾を書きかえられないものかと思いました。あるいは代案として、3番の「施策及び成果指標」のところの文章を少し肉づけできないかと思いました。どうでしょう。

○星野部会長 ありがとうございます。

今二つご指摘いただいた中で、まず特に前半の指標ですけども、総会で安浦会長からこのお話があって、非常に限られたサンプル数の中で変動性があるのではないかとということがあります。その中で例えば、今回、目標2で「地域住民の連帯感の強さに対する満足度」というのが非常に高い満足度を持っているとか、こういうのを見たときに、今後アンケートをとってどこまで変動性が出てくるのかなと、ちょっと心配になりました。先ほど「どのぐらいのサンプル数なんですか」ということをお聞きしたんですけども、それなりにこのアンケートはとられているようなので、後で補足いただきます。

それともう一つ、私も先ほどの雇用創出のところでは指摘させていただきましたけれども、「どこかの都市で都市間競争が激しくなっています」という当事者としての意識が感じられないような文章で、これは気になりました。実はほかを見てもそのとおりで、前半では「担い手として」というかなり強い当事者としての意思が入っているにもかかわらず、後ろの目標になってくると非常に客観的な現状分析になっている。それは委員のご指摘のとおりになっているとおりで、もう少し当事者としてこうしたいというのがあってもいいのではないかと私も思っていたんですけども、これについては藤本課長から二つ、特に前半の指標のとり方と表現の仕方についてお話してください。

○事務局（藤本） まず指標のとり方については、確かに国際的に比較できるものがあれば使いたいというのが本音です。ただ、住みやすさの評価等について国際的に比較したものというのは、個別の雑誌等で例えばサンプル数などがはっきりしない形でされているものが多いということと、それぞれの雑誌社の選び方によるところもあるというのが一点です。あと実際に国際的に同じやり方でアンケートをとることは難しいということもあって、もし可能なものがあればそうしていきたいとは思いますが、難しいということでこのようになっています。

あと、この数字については、毎年5,000人ぐらいの規模で市民意識調査をしていますので、基本的にはそれに準じた調査による市民意識を使っていきたいと思っております。ただ、これは必ずしも一つでなくてもいいので、例えば母数は少ないけれども国際的な数字として使えるものがあれば、そういったものと並べたりとか、少し国際的な比較と

いうことも含めて考えていきたいと思います。

それと先ほどご指摘の意思の表現については、先ほどご説明した施策の項目と成果指標の間に、先日からお渡ししている施策検討用参考資料を入れようと思っております。その文章は精査中なので今回は入れられなかったんですが、でき上がりのイメージとしては、先ほどの施策8-1でしたら、「都市の活力を牽引する都心部の機能強化」の下に、「国際競争力の高い都心部をつくるため、九州、アジア、環境、防災を中心とした安全・安心などの視点を踏まえ、建築物の建てかえと公共基盤の整備・更新の機会をとらえながら、官民共同で都心部の機能強化と魅力づくりを推進します。特に天神、渡辺通り、博多駅周辺、ウオーターフロント3地区を核として、都市機能へのアクセス性、回遊性を高めます」という形にパブリックコメント後に整えていきます。本日いろいろご意見をいただいている中で、指標でなかなかとらえにくいものについては、この文章の中にしっかりと書き込んでいくような形で考えていきたいと思います。

○星野部会長 委員、よろしいでしょうか。

○委員 2点目は非常に明快にご説明いただき、ありがとうございます。それでよろしいかと思えます。

1点目のほうは、私の説明で「国際」が強調され過ぎたんだと思うんですが、客観性の問題だと思うんです。よその部会に対してあまり言うのもどうかと思いますが、例えば安全・安心だったら、犯罪に関する満足度じゃなくて、露骨に犯罪率とかですね。目標値を明確に持って仕事をやるという話になるので苦しいというのはよくわかるんですが、これは別に市役所だけでやるという話ではないわけですね。もちろん市が基本ですけども、民とも共有してやっていくという位置づけであることと、それから未来の市民、今の市民でない人も意識しているという前提だと理解していて、今の人が満足しているかどうかだけではなく、福岡に訪れよう、住もう、働こうと思っている人が見たときに、なるほどと思える書きぶりをしておくことが非常に重要なのではないかと思いますので、ぜひ客観性のある数字を入れていただきたいと改めて申し上げます。

○事務局（藤本） わかりました。ご指摘を少し誤解していたところがございます。そこにつきましては、例えばおっしゃったような犯罪のところであれば、今は個別の項目のほうに刑法犯認知件数とかいう客観的な数字を入れていきます。大きな項目のほうなので少しくったような意識のものが多いんですが、実際の犯罪とかいうことであれば客観的な実数のほうが良いというところもあると思います。ただ、その前の32ページの地域住民の連帯感の強さみたいな満足度でしかはかりにくいところもありますので、そこは

ほんとうに客観的な数字が使えるものについては使うような形で再度見直したいと思います。

○委員 これですけれども、犯罪を例にとってしまったのは非常によくなかったんですが、まずは前向きな数字を出すべきだと思っていますので、犯罪件数が多いのを減らすとか、ネガティブをよくするという方向で頑張る書きぶりではなくて、できればいいところを書くほうが外向けにも内向けにもいいと思っています。犯罪率にこだわっているわけではないということだけご理解ください。

○星野部会長 ありがとうございます。

それでは、基本計画の各論1から8をお認めいただいたということで、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○星野部会長 ありがとうございます。それでは、これを総会に回すことにします。

それでは、残っているのがパート2の空間構成目標と最後の区のまちづくりなんですけれども、一度この空間構成目標について事務局からご説明いただいて、それから少し休憩をとりたいと思います。それでは藤本課長、お願いします。

○事務局（藤本） 資料3の空間構成目標です。これについてはあまり大きく修正しているところはありません。公共交通の話とかを少し現状のほうに入れさせていただきますということで、53ページのところに、「身近な」「誰にでも分かりやすく使いやすい公共交通の確保など」「質の向上を図る必要があります」というところだけ入れております。

先ほどご指摘がございましたゾーン制、新しい交通の仕組みみたいなものについてはまだ書き込んでおりません。それについては、具体的なお話は書けませんが、安浦委員からIT技術等の話がありましたので、58ページの中で、方向性として、新しい技術や新しい仕組み等について検討していきますという内容と、委員からご指摘のございました防災に関してのところについてもまだ書き込んでおりませんので、その2点について少し書き込んだ形で総会のほうに諮る案をつくらせていただきたいと思います。ここは間に合っておりませんので申しわけありません。

○星野部会長 ということは、この空間構成目標は大きく変わってくるということですね。

○事務局（藤本） 大きくというか、今の2点を追加する形になります。

○星野部会長 例えば、委員がこの前、空間構成目標は都市空間だけで考えられるものではなくて、交通体系が重要であるということ言われたわけです。そこまで入れ込もうとすると今のを少し手直ししたぐらいでは済まなくなるのかなと少し危惧していたんですけれども、それはどういうふう考えられますか。

○事務局（藤本） ご指摘自体については、交通というのをここで新しく一つ起こしています。ただ、これだと既存のことだけなので、新たな仕組みとしてゾーン制などのご提案をいただいたんですが、ただ、具体的にこれというところまでは多分書き込めないと思いますので、新しい仕組みとか新しい技術とかを導入するということを追加するような方向で少し検討したいと思います。

○星野部会長 以前、委員からラッシュ、渋滞のご指摘をいただいたかと思います。そういうネガティブな話もそうですし、七隈線が全通したときに通勤時間が目に見えて短縮するのかなとか、都市圏の交通体系についてはポジティブにもネガティブにも考えられることがあるかと思うんですけれども、そういったものはこの中に加えられることになるんでしょうか。

○事務局（藤本） 少し大きくくりで入れていますので、実際の交通体系のところでは渋滞解消というあまり細かい記述まではとっておきます。大きく見直すということになりますとまたご審議いただく回もございませんので、今の想定では防災のお話と新しい技術なり仕組みというところを入れるぐらいで、31日の総会ときにはその二つを入れた形でお出しいたしますから、それで足りない分についてはパブリックコメントをさせていただいた後にできたものを見ていただいてまたご検討いただければと思います。

○星野部会長 空間構成目標についてご意見いかがでしょうか。

○委員 では、パブリックコメントをやった後、今言った交通等の話し合いの時間がどれぐらいとれそうなんですか。日程に余裕があるんですかね。

○事務局（藤本） 基本的に、31日にはご指摘いただいた防災等については少し書き込んだ状態で一たん見ていただきます。また、パブリックコメントの後に2回の部会がございますので、その際にぜひまたきっちりご議論いただければと思います。

○委員 細かいことになると当然まだ先の話になると思うんだけど、要するに、福岡市が今まで既存で持っている都市計画、都市計画審議会とかで今やっていますが、それとのかぶりというのは多分あってはならないというか、この空間の交通体系については新たに具体的に何か出していいということなんですかね。

○事務局（光山） 位置づけの話になりますけれども、今回、マスタープラン、基本計画の中での空間構成として構想図を出させていただいています。今ちょうど都市計画マスタープランと交通マスタープランを同時並行でつくっておりますので、考え方として、大きな話をマスタープランの中で図や文言で整理をしていく、少し具体的な話は交通とか都市計画マスタープランのほうに入れていく、さらには施策とか予算の中でどうやっていくかみたいな話で、一応、大どころの構成としてはこの基本計画があつて、あとは都市計画マスタープランとか交通マスタープランというところにもう少し具体的に落とし込んでいくというイメージになると思います。基本的にはそこは整合していく形で対応させていきたいということで、今、関係部局と打ち合わせをしているところです。

○委員 では、この会で改めて新しい考え方が出てもそれは構わないということですよ。それが今言ったマスタープランの中にオーソライズされていくということですよ。

○事務局（光山） そうですね。そこをどこまで今後を見据えて方向性として書き込めるかというのは十分検討が必要かと思っておりますけれども、新しい考え方をご議論いただいて結構です。

○委員 では、要望を申し上げておきます。何せこの会議は短いものですからどこまで入れられるかというのはあるんでしょうが、せめて8月末の総会が終わって、次にパブリックコメントに出しますということですから、それについて十分に審議できるように時間の確保をお願いしたいと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。

各委員は必ずしもほかの構想を十分熟知した上で参加しているわけではなくて、それぞれ持っている知見から新たに加えていただく必要があるかと思っておりますので、それはもちろん入れる余地を考えていただきたいと思います。あと、先ほどのお話でご指摘いただいた空間構成目標にいろいろな要素を入れ込むというのはパブリックコメントと同時並行で準備は進められていて、かつパブリックコメントで入れられたものを含めて修正をしていくということですのでよろしいんですね。つまり、パブリックコメントまでは手をつ

けないのではなくて、その作業はずっと続いてくるということですね。

○事務局（藤本） はい、そうです。

○星野部会長 ありがとうございます。空間構成目標についてお認めいただいたということでもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○星野部会長 それでは、区の目標については前回ここで全く初めて提示されて、なかなかやりづらい中で新たにまた要素を入れていくということになりますので、ここで少し休憩をとりたいと思います。今、あちらの時計で5時3、4分前ですので、5時5分に再開したいと思います。よろしくをお願いします。

（ 休 憩 ）

○星野部会長 それでは、皆さんお戻りですので再開したいと思います。

今日の審議の最後のパート、区のまちづくりの目標について、まず、資料4と5に基づいてご説明をいただけますか。

○事務局（藤本） それでは、資料の4と5についてご説明させていただきます。まず、資料5から先にご説明をさせていただきたいので、資料5を見ていただけますでしょうか。区の計画等の経緯についてということで、今までの経緯を簡単にご説明いたします。

区別の計画については、昭和63年策定の第6次基本計画、今現在の基本構想のもとの最初の基本計画のときに「区別計画」という形で策定をしております。そして、第7次の基本計画も同じような形で構成されておまして、第6次の目次をつけておられますけれども、それぞれの都市像の解説の次に区別計画という形で入って入って、その下に区別計画の趣旨から説明を抜き出しております。昭和47年に政令市になって、市民自治の充実や市民生活の利便性の確保ということで行政区制というのをスタートさせました。ただ、都市化が進展して地域社会が非常に変貌したりとか市民の価値観が多様化したりして、快適な都市生活環境の形成が求められている。このようなことから、市民ニーズや地域の課題を的確に把握して、市民の身近な生活空間としての地域の視点から総合的、計画的に施策を推進していく指針が必要だということでこの区別の計画がつくられております。

第7次の基本計画においてはそれにさらに少し趣旨が加わりまして、実際、子供の成長を支えるとか高齢社会に向けた支え合いということで地域が非常に重要になっている、

コミュニティの意識が希薄化している、また地域のまちづくりというのは住民が主体となって行政と共働する、そういったまちづくりへの取り組みへの参加ということが重要になってきたということで、第7次では地域における市民と行政の共通のまちづくりの目標になるようにということで区別計画を設定されています。

今現在の計画である第8次の基本計画については「新・基本計画」となっていて、「全市編」と「区基本計画」を別々のものとしてつくっております。内容としては、区ごとに地域の特性や課題を踏まえて、個性を生かした暮らしやすい魅力ある施策展開の方向を示す計画をつくっているところです。

それで、今回の計画においては基本計画全体の考えとして市民と共有するということが、そのためにコンパクトでわかりやすいものになっているということ、また、基本構想から実施計画まで一気に同時に策定をしておりますので、区の計画については「区のまちづくりの目標」ということで基本計画の目標の一部に組み入れるという形にしています。

引き続き資料4のほうをお願いいたします。1枚めくっていただきまして、59ページ、ここで今回の区のまちづくりの目標についての性格を整理しております。

まず、先ほどから戦略のところとかで述べておりますように、経済のグローバル化が進展して福岡市の広域的な役割というのが非常に重要になってくる一方で、市民の暮らす地域においても、人口が集中することで生活環境上の問題が起きたり、高齢化で地域活力が低下したり、地域ごとにさまざまな課題があります。福岡市が生活の質を向上させてそれを都市の成長につなげていくためには、このような地域の課題を的確に把握して解決する、また地域の資源を生かして地域の魅力を高めることが必要です。そこで、市民やさまざまな主体が地域のまちづくりに取り組む、そのためにまちをどういうふうにしていこうという共通の目標として区のまちづくりの目標を定めるという位置づけになります。

この後のページにそれぞれ先日出させていただいたような区ごとの目標が掲げられておりますが、それを総括いたしまして、どういう地域づくりをめざすのかということで、全体の「めざす姿」を書かせていただいております。自治と多様な共働により区ごとの目標が実現しているということで、一つが、市民生活に身近な地域の課題の解決に向けた取り組みが進んでいます、また、地域の資源が活用されて个性的な地域づくりが進んでいます。また、ここはご指摘がたくさんあった点ですが、福岡市における拠点となっている地域については、全市における役割をそれぞれ適切に果たしていますという地域づくりのめざす姿を掲げております。

そして、この下の各区の概要については、それぞれ別々に出ている人口や面積についてはここにまとめてあげたらということでご指摘を踏まえ、ここに上げているところで

す。

60ページは全体の区の配置の地図をつけております。

61ページ以降は前回お出しした資料のままで変えておりません。これについては、前回、全市の拠点になっている地域についての記述をもう少し盛り込むようにという指摘をいただきましたので、これについても31日の総会までに修正してまいりたいと思います。その修正をするに当たって、このあたりが足りないとか、この辺を少し追加したらいいというところについて、本日、今から個別にご意見をいただきたいと思います。

説明は以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。

先日、この福岡市の基本計画の中で区のまちづくりの目標が示されたときに、これを基本構想、基本計画の中に含めて審議をするのかどうか、区ごとに出されてきた目標については、内容的に生活の質部会にかかわることがあったとしても、都市の成長部会の内容には含まれていないという指摘させていただきました。ただ、この第8次の基本計画を見ても、全体の構想の中に実際に区としてどのように方向性を示していくのかという考え方が含まれていたようですし、おそらくこの基本構想、基本計画の中に区のレベルの内容も入れる必要があるのかと思います。そのように、ここで審議をした結果を基本構想、基本計画の中に含めるとすれば、もう少し全体の構想との整合性を考えながらやっていただく必要があるということで、前回も何点かお願いをしました。

まず皆様からご意見をいただいたことは、いきなり各区が出てくるのではなくて、まず福岡市として全容がわかった上で各区に入っていくべきじゃないかということでした。今回、非常にわかりやすい福岡市の全体像とファクトシートを入れていただいて、まずこれで入りやすく、見やすくなったかなと思います。

もう一つが、区ごとのまちづくりの目標はあくまでも区の視点で書かれていることから、内容が生活の質に寄っているのは当然のことなんですけれども、この中で、例えば、拠点性ということの中で考えられているのであれば、それについてももう少しきちんと区の中に入れて考えていくべきではないかという安浦会長からの話がありました。実際に今までの議論で、東のインランドシティや西の九大学研構想、あるいは博多中央区のビジネス街、商業街も含めて、区としてこういった役割を持っているということを引きちんと入れ込んでいくべきではないかということで、その要素を入れながら、一度これを総会までにまとめていただきます。実際のでき上がりについてはその後にまた審議をさせていただくことになると思うんですけれども、本日は、できる限り都市の成長という我々の視点から各区でこんなことも入れるべきではないかというご意見をいただきながら少しこれを固めていきたいと思います。

これも事務局とさんざん議論をさせていただいたんですけれども、この中に生活の質にかかわることと都市の成長にかかわることを半々で入れ込むということはなかなか難しいことです。あくまでも区ごとにつくられている目標というのはそこに住む方の視点で書かれていて、一方でこれを全体の戦略として入れていくということになると一部にならざるを得ませんが、それでも都市の成長の視点を入れていきたいと思います。

ということで、少し長くなりましたけれども、区のまちづくりの目標についてご審議いただくというよりは、それぞれの区について、ここにはこんな要素を入れたほうがいいのではないかとということをもとに出していただいて、先ほどの空間目標と同じで、一度まとめてつくっていただいたものをパブリックコメントの後に少し審議をさせていただきたいと思います。

まず、区のまちづくりの目標の福岡市全体、ページ数で言うと59、60ページ、それと、東区を扱った61、62ページのあたりでのご意見はいかがでしょうか。特にこちらの部会にはそれぞれの区を基盤としている市会議員の方もいらっしゃいますので、お考えになるところをぜひお聞かせいただきたいと思います。特に東区のほうは、東の拠点という考え方と、もう一つ、アイランドシティというものをこの中に入れていただくというのが都市の成長という視点からすると一番大きなところかなと思いますけれども、何かほかに入れることがありますか。

○委員 62ページの「まちづくりの方向性」に丸が四つありますが、アイランドシティは一つの項目として挙げるべきじゃないですかね。今からの福岡、九州を考えたときに一番大きな基盤になると思いますので、「新しいビジネス拠点」とか、そういうような形でアイランドシティのところをもう少しローズアップさせたほうがいいのではないかと思います。

○星野部会長 新しいビジネス拠点としてのアイランドシティ。そうですね。ありがとうございます。追加がありましたら後ほど補足いただいて結構です。

次に、博多区はいかがでしょう。

○委員 どこに入るのかわからないですが、国際会議場は多分、博多区ですかね。もしそういうのが入っているのだったら、MICE（マイス）、あと、東のほうには、陸上競技場といますか、博多の森がありますので、国際スポーツ大会とかそういうのが欠けていると思いました。よろしくお願いします。

○星野部会長 まさにご指摘のとおりで、MICEというのが成長部会では目標として審

議されているながら、区の目標に含まれていないというのは問題だと思うので、博多区でいえばMICEという考え方、あるいは、今、博多区では、回遊性を高めるような、観光客を誘致するようなさまざまな仕組みが考えられていますので、そういうものもクローズアップして書いていただいているのではないかと考えます。ありがとうございます。

中央区はいかがでしょう。

○委員 今、各ページを見ているけれども、まちづくりの方向性の中に安全で安心して暮らせるとかということがどこもきちんと入っているんですが、そういった部分では都市の成長という部分でもう少しグローバルに具体的なものを抽出していただけないかと思えます。

例えば、中央区であれば、下に細かいことは書いてあって、交通渋滞の問題とか、天神地区のバスの一極集中化といった問題というのは区だけが考える問題ではなくて、都市全体にかかわる大きな問題で、中央区という区の特徴としてしっかり入れ込むべきではないかということと、細かくは自主防災組織の支援とか、こんなことはずっと自発的にやってきてはいるけどまだまだ足りていない部分があります。例えば、福岡で起こった樋井川とか那珂川とかの水害の観点からも具体的な避難経路をきちんと決めるとか、10年後の目標としてやるのであれば、そういった大きな視点が弱過ぎるのではないかと思いますので、そういった課題を再度きちんとご検討していただけないかと思えます。例えば、細かいことにはなるかもしれませんが、災害時における地下街の活用とか、地下鉄の問題とか、そういった部分が核になってくるのではないかと、そういったまちづくりをしていかなければならないのではないかと思えます。

以上です。

○星野部会長 東区を見ても、博多区を見ても、中央区を見ても、同じように表題のところに安心、安全、快適なまちづくりとして書かれているわけですが、そこに具体性があるわけですし、それぞれの区にそういった固有の問題、かつ動きというものがあるので、それを入れていくということですね。ありがとうございます。

○委員 ソフトリサーチパークとかのクリエイティブ産業について、中央区に入るのか早良区に入るのかわかりませんが、どこかで記入されておいたほうがよろしいかと思えます。

以上です。

○星野部会長 どうぞ。

○委員 一つ言い忘れていました。大変な作業だと思いますけれども、我々は今、10年後の議論をしているわけですね。その中で、最初の59ページに市の将来人口が入っているのはいいんですけれども、地区ごとに10年後、20年後に人口の何%がどこに集中するという人口率の予測がある程度具体的にわかるんだったら、それを入れて、それに対する交通問題とか、まちづくりとか、安全問題といったのも総合的に考えていかなければならないと思います。ただ人口が増えますと言っているけれども、その増えた人口がどこにどう影響してくるかというのが全く想像がつかないというところで終わらせてはいけないと思います。福岡市は今年の5月に人口動態推計を出したわけですね。マスコミにも発表しました。

○事務局（藤本） 人口推計につきましてはこちらのほうで推計をさせていただきました。福岡市で生まれる数と亡くなる数という自然増減と、それから、福岡市に転入される方、転出される方というのを基本にして、その趨勢を伸ばすという形で区ごとに推計しているんですが、小さい範囲になればなるほど開発の動向、要は住宅が供給されるかどうかなどの不確定な要素が大きくなりまして、それより細かい地域ごとについてはこちらではなかなか推計できませんで、結局、ここに出ております区ごとの10年間というところが一番細かいものです。例えば、今、実態として戸建て住宅が多いところで高齢化がすごく進んでいたり、校区ごとに課題があることは認識していて、そこで開発が起きる起きないみたいなのがございまして推計が難しいということではありますが、そういう地域ごとの課題というのは認識しながら施策を考えたいと思います。

○委員 では、続けて。今、中央区でとまっていますけれども、要するに、これに書いてあることは、我々市議会の中でも論議されていて、これを見ていけば、各区、どれも全部大切なことです。地域の視点からということで、これは普遍的で変わるものがない、むしろこれから進めていかなければいけないということは十分わかるんですが、私、交通の問題も言っていますけれども、さっきの空間から見ても、10年後にどこに人口が集中して、人の流れがどう変わっていった、それに基づく都市の成長における公共交通インフラ整備といった問題について、これは先日、福岡市議会でも逆の視点で指摘しましたが、例えば、原発問題を含めて、今後、大規模な避難訓練とか、人口を移動する、もしくは福岡市西区の西公園にある石油コンビナート、ああいうところが長周期に耐えられず爆発した場合、どういう避難経路になるかということにもかかわってくる。

世界の都市においては、都市の成長とともに、交通渋滞や退路を断たれるといったことをある程度考慮した都市計画がされている部分があるし、できていなかった部分は即

座に修正をかけて道路をつなぎ合わせたりいろいろ計画を立てたりしている。我が国というのはそういうところは都市も地方自治も非常にばらばらにやっていて、どちらかというと経済成長のほうばかりに議論が集中し、利便性だけの追求に陥りやすいんですが、今後の10年というのは、各区も含めて各都市の人口の動向を見きわめながら、交通がどう影響してくるのかということも踏まえて考えていくべきではないかということをおは意見として強く申し上げたいと思います。

中央区でとめてしましまして申しわけございませんでした。

○星野部会長 人口動態の変化によってどのようにまちの交通体系を変えていくべきなのか、それは先ほどの空間目標の中にも入れるべきことですね。ありがとうございます。

○委員 それが災害にも大きく影響してくるということですね。そういった10年後の福岡市の姿に私は責任があると思っています。

○星野部会長 今のことについて、いかがですか。

○事務局（藤本） ご意見はそのとおりと思いますので、そういった視点をしっかり持ちつつ、必要なところは書き込むように検討していきたいと思っています。

○委員 よろしくお願ひします。

○星野部会長 ありがとうございます。今ご指摘いただいたような視点をに入れてください。おそらく前回もここで要素を入れていただきたいというお話をしましたけれども、それがすべてではなくて、当然、この都市の成長部会で話し合われた考え方に基づいてもう少しこれを見直していただきたいということを事務局をお願いしていて、事務局のほうでもそれを入れていただき、かつ我々が指摘する要素を入れて次回、直していただくこととなりますので。

南区についてのご指摘はいかがでしょうか。

○委員 細かいことになるんですが、現状と課題の丸の2番目のところに「近年、全国的に地震や集中豪雨などの自然災害が」とありますが、西鉄が通っている平尾、高宮、このあたりの真下には警固断層があるということが言われていて、この近辺にお住まいの方は非常にそれを不安に思っているらしいです。警固断層という文面も入れていただいて、それを想定した非常時に有効に機能する仕組みの構築や担い手の育成というところ

ろにつなげていただければという要望です。

○星野部会長 ありがとうございます。これも、先ほどから各区ある安心、安全という一般的な話ではなくて、かつ全国的な自然災害という話でもなく、南区をベースにこういった取り組みをされているのであれば、今ご指摘いただいたようなトーンで南区をベースとした考え方を書いていただくべきかと思います。いいご指摘をいただきましてありがとうございます。

ほかに南区あるいは城南区でいかがでしょうか。

この城南区も、現状と課題を見ていると、全国的な集中豪雨、日本全国の少子高齢化とあって、それこそ区の視点で書かれているわりにはあまりにも大きいと感じますね。もし城南区の中でそういう何かの取り組みをされているのであれば、固有名詞を含めてもう少しそれを具体的にに入れていただいたほうがよさそうに思います。

お気づきのところがありましたらまた後になっていただいても構わないですし、既に通り過ぎた区であってもコメントをいただいて全く結構ですけれども、次に、早良区はいかがでしょうか。

早良区については先ほどソフトリサーチパークのお話がありましたけれども、都市の成長としてはそこを核にしたようなことをもう少し入れるべきというご指摘でしたね。

前回、たしか安浦会長からそれぞれの区に入れてある図表をできる限り統一するというご指示があったかと思うんですけれども、ただ、これはそれぞれの区の特徴をあらわしているので、すべてがすべて横ぐしで同じ共通項というわけにはいかないと考えますし、これはむしろ特徴をあらわす図表があつていいのかなとは思いますが、いかがでしょう。

○事務局（藤本） 図表につきましては、当然、その課題等をあらわすものを置くような形にしておりますが、安浦委員のご指摘については、例えば、同じような数字が違う形式で出ていて、そういった形式上そろえられるところはそろえるようにということだと思いますので、そちらについてはしっかり対応したいと思います。

○星野部会長 それでは、早良区、西区はいかがですか。お願いします。

○委員 また産業面ですけれども、西区は多分、農業、水産業が盛んだらうと思うんですが、ここにあまり書かれていないんですよ。前の早良区の南部のほうは農業の活性化というのがあるんですけれども、西区のほうは「水と緑の豊かな都市環境づくり」とだけあって、全く記載がないなと感じました。

以上です。

○星野部会長 先ほど目標6のところでは委員にご指摘いただいた農林水産業ですけれども、具体的に農林水産業の担い手となっている区があるのであれば、それは中に入れておかないといけないということですね。ありがとうございます。

ほかに西区に入れておくところはいかがでしょうか。

○委員 大きな問題ではないんですけれども、一番最初のまちづくりの目標で囲んでいるところがそれぞれありますよね。東区であれば「すみやすい、あんしんなまち・東区」、それから、博多区であれば「お互いが支え合い、安心して人が暮らし、歴史と伝統が息づくまち」になっているんだけど、これも「・博多区」とか。そうしたときに、今度は65ページの中央区であれば「人が集い、人が輝き、人がやさしいまち「中央区」」となっているので、ここら付近は同じスタイルにしたほうがいいのかなど。そういうことで、「いきいき南区 暮らしのまち」を見ていたら、最後に「・南区」を持ってきたときにどういう言い方で表現が統一できるんだろうかなと思いつつ……。早良区も、上の大きな題目の下にもう一つ目標の言葉が来るのか。これだけであれば「ひと・みず・みどりが光り輝く ふれあいと交流のあるまち・早良区」としたほうがいいのかなど。

○星野部会長 各区それぞれのフレーズと各項目は、書いて提出されてきたものを集約されたというやり方なんでしょうか。

○事務局（藤本） この原案については各区のほうで作成をして、それを我々のほうで集約しています。形の統一につきましては、今、目標があつて、概要があつて、現状と課題とまちづくりの方向性というところまではこちらで最初から指定したんですが、あとは、例えば区の実情ですとか、それからスローガンをいろいろ使っているとか事情があつて、区のことにつきましてどこまでそろえるかは、全体で見たバランスとどこまで区の独自性を大事にするかというところだと思いますので、そこについては、そのようなご意見があつたということで一度ご検討させていただきたいと思います。

○星野部会長 これも事務局の方とお話をしたことですが、区から独自性をもって上げられてきている内容は問題ないと思うんですが、ただ、例えば、ここで審議されている都市の成長という観点を区では必ずしも持っているわけではないので、区の方にしてみれば少し落ちつきが悪いかもしれませんが、都市の成長性という考え方をこ

の中に入れて、ここで審議された内容としてこの次の段階ではぜひつくっていただきたいと思います。区でつくられたことにあまり手を入れないというふうには考えないでいただきたいと思います。

それでは、今、7区と福岡市全体を見ていただきましたけれども、全体を通して、あるいは各区の中でご指摘いただくところがありましたらお願いいたします。

○委員 誤解があったら申しわけありません。最初の59ページを見ると、各区の概要の中で区別面積とか人口とかあって、特に人口のところは、例えば宮崎市とか佐賀市と同じぐらいの人口があるわけですし、一つの県庁所在地の市と一緒になんです。したがって、今回の成長部会の論点とは違うのかもしれないけれども、自主自立、独自性、権限の移譲というか、できたらそういうのには触れられませんか。

それから、さっきの項目の中になるのかもしれないけれども、各区の目標の中に、人口を増やしていかないといけないとか、私、前回も言いましたが、女性が働く、それから地位を高めるという意味でも、男性も一部ありますが、産婦人科医、助産師の数が充実、それから、働く男女のための保育園の充実等、福岡市全体もそうですけど、区独自にナンバーワンの産婦人科医、助産師がいるとか、数が充実しているとか、保育所などの託児施設がこの区はナンバーワンだみたいな独自性を競わせるとかあってもいいんじゃないでしょうか。これは共働きで言えば男性も一緒なんですけど、今回、女性の問題と一緒に子育てや助産師とかの問題が全然出ていないということを感じました。場違いかもしれませんけど。

○星野部会長 福岡市の基本構想、基本計画の中には道州制だとかには全く触れていなくて、そういった新たな構想というのはなかなか入れづらいのかなと思うんですけども、藤本課長、これについてお話しいただけますか。

○事務局（藤本） そのあたりの制度につきましては、基本計画の本編の11ページのほうに「基本計画推進にあたっての基本姿勢」ということで行政がどうあるかというところを入れております。こちらの「時代に合った柔軟で果敢にチャレンジする市役所」というところに、「市民に身近な区役所については、市民生活に密着したサービスの拠点、地域の個性を生かしたまちづくりの拠点と位置づけ、市民サービスの向上やコミュニティ支援機能の強化を進めます」とあります。区役所はこういう位置づけにしますというのは、いわゆる福岡市の行政をどう運営するというくくりとしてここの中に入れておまして、いわゆる市の中の組織としての区のあり方については、実際の行財政運営をどうするかというところの中で議論されていきます。

実際に行政がどうあるか、行政のモチベーションの問題というのは大事ですので、それはそれで別のところで議論していくんですが、こちらの区のまちづくりの目標については、行政のあり方とは別に実際に区がどうなっていくかを共通の目標として出していて、ここでは入れていません。ただ、区で独自性のあるまちづくりがされていくようにという考え方は入れているつもりです。

それと、先ほどの保育所等の関係については、バランスを見ながら全市的にやっているとところがあるので、そこは区同士で競争するというよりは全市でバランスをとって適切に保育サービスを供給していくことを今のところは考えているところです。それぞれ別の自治体になれば当然、別々にというところもあるんでしょうけれども、基本的には福岡市という一つの自治体の中で適切に供給していくことになると思います。

○星野部会長 区のまちづくりの目標は福岡市の総合計画という一冊の中に入るのかもしれませんが、一方で、今ご説明いただいた、基本計画の10ページ目に当たる区のまちづくりがどういう枠組みに位置づけられるかということはこの59ページ目にもう一度入れることで少しわかりやすくなるのではないかと思います。同じ枠組みが2回出ることにはなるかもしれませんが、こういう構想、基本計画の中でまちづくりをどういうふうにしていくかという意味では、59ページあたりにもう一度これを入れていただくのはいかがですか。

○事務局（藤本） 検討します。

○星野部会長 では、ご検討ください。

お願いします。

○委員 多分同じ話で、行政としてではなくてまちづくりとして考えると、区ごとに違うということは実はすごく大事なことはないかと思うんですね。特に国内外から新しい住民に来てほしいというのがまずありきだと考えたときに、求める暮らしの質というのは実は人によって違うはずです。超高層マンションに住みたい人もいれば長屋が好きな人もいて、海が好きな人がいれば山が好きな人、まちなかが好きな人がいる。そこは各区が特色を生かして、個性を伸ばして、福岡全体でいろいろな暮らしの場を提供していくことが成長に対してすごく重要だということをまず打ち出すことが結構大事な気がします。なので、一文追加される場合、区ごとに違うことが成長に対してすごくプラスだということを明確に書いたほうがいいのではないかと考えていまして、今の59ページだと「めざす姿」の一番下の三つ目のポツに「全市における役割を適切に果たしてい

ます」とあって、それはそのとおりなんでしょうけれども、それが何かという価値観の記述をここに入れていくといいのではないかと思います。

その上で、小さい話を1個だけします。そうは言いながら、全市のどこかで居住環境として提供しなければいけないものがあって、その一つに先ほど星野部会長がおっしゃっていたインターナショナルスクールというのがあると思っています。今、その記述が早良区では抜けていると私は思っているんですね。百道地区というのは実際に文化施設等もあって国内外のいろいろな方に人気があるというのはそうだと思うんですが、では、早良区さんはそれを生かして何かされようとしているのか、さらに伸ばそうとしているのか。そこは区の方針もあれば、インターナショナルスクールという教育環境を全市の中のどこでどう出していくかという大きな目線で押さえるという両面があると思うので、本編のほうで入れるのに加えて、早良区さんのところに今少し記載がありますので、その記載を足すかどうかを早良区さんと話して決めたほうがよいのではないかと思います。

○星野部会長 どうぞ。

○委員 私も先ほどの委員の意見と全く同じことを思っておりまして、各區別で見た場合はすばらしいことを書いていると思うんですが、全区通して見たときに、同じようなスローガンなのでインパクトが残りにくいんですね。それで、委員がさっきおっしゃったように、福岡市でも7区あって、市外から福岡市に転入してこられる方が自分の生活状況などに合わせて居住地を決められる際、どの区に住んだらいいか、この内容では特色がわかりにくい気がするんです。細かいことになるかもわからないですけども、福岡市の各区はそれぞれ特色を持っていると思いますので、そこは各区役所の方にもう少し出していただきたいなということを感じました。

○星野部会長 ありがとうございます。まちづくりの目標の丸が四つぐらいあるのを全部ばらしてそれぞれどの区かということのを再編成しようと思うと、どの区も同じようなことを言われているのでおそらく戻らないですね。ですから、ご指摘いただいた、個性、価値、そこが生み出しているおもしろさというものがもう少しアピールできるよう、ぜひ考えていただければと思います。

○委員 今のに関連してですけども、まちづくりの方向性を三つか四つ書いてあるんですが、この順番を、例えば、特色のあるのを最初に書くとか、もしくはこれをぜひやりたいんだということを最初に書いていただくほうがわかりやすいのかなと思います。

その中で、若干違和感があるのが64ページにあります博多区なんです。私は博多区と

というのは市街地だという印象が非常にありますが、「にぎわいのあるまち」というのが一番最後にあるんですね。私の感覚としてはこれが多分、一番上に来ると思いますので、その辺を含めてご検討いただければありがたいと思います。

○星野部会長 ありがとうございます。この辺は事務局とさんざん議論したところで難しいところなんです。例えば、都市の成長という視点から考えればにぎわいとか商業街だということを書きたいところなんです、区の視点で見るとまずは住民にとって住みやすいまちづくりを模索されているので、この部会の意見を反映させながら、こちらを優先するのは難しいかと思えます。私も最初は非常に反発していたんですけども、今になってみると確かに区の視点で考えていくとそうなるのかなと思っていたんです。藤本さん、今のに補足いただけますか。

○事務局（藤本） それぞれ特色なり個性なりが非常に豊かな区ですので、その区の特徴がより伝わるようにというのはすごく大事なことだと思います。ただ、今、部会長からおっしゃっていただいたように、市民の目線で見るときに何が一番大事かというところの順序とかについては、生活の質のほうの部会での見方もまた少し違います。こちらの部会としてはそういうことが大事ということはお意見としてはいただいておりますけれども、生活の質の部会のご意見も踏まえないといけませんし、実際の基本計画の全体の立てつけの中では市民生活を前に出す形でしておりますので、ご趣旨としては個性なり特色ができるだけ見えやすいようにということで承りまして、少し検討させていただければと思います。

○星野部会長 今いろいろなご意見をいただきました。生活の質の部会がメインになってこういったところを審議されているので、もちろんそちらとのバランスもあるでしょうが、各区の持つ個性、価値のもう少し具体性を持った記述、それから、各区のほうではなかなか気づかれないかもしれないですけども、福岡市としてその区が持たされている役割としての成長性、そういったものを少し盛り込んでいただいて、次回の全体の総会のときにご提示いただいて改めて皆さんの意見をお聞きするということになるかと思えます。

ということで、今、区のまちづくりの目標についてご意見をいただきましたけれども、何か追加はありますでしょうか。

○委員 時間の問題と区の自立性の問題でそんなことはできませんという可能性はあるかと思いつながらのご提案なんですけれども、まず、私は多様であることに非常に価値があ

と思います。区も大きくて、例えば、早良区は山の奥とももちは全然別で、実はそれが地図で明確に出ているんですね。博多区も同じだと思ひまして、港と都心から空港の南側まで全部博多区で、それはそうなんですけれども、その違いというものがコミュニティ単位でとらえられるような図というのが、一つは市民から見てもすごくとらえやすいし、外から見ても、さっき富永委員がおっしゃったような、自分が居住地を選択する際にも役に立つ情報なのではないかなと思います。

何でそんなことを申し上げているかというのと、都市計画マスタープランで書けばいいかと思ったんですが、都市計画区域しかカバーしていなくて山や海のほうが抜け落ちるので、実は総合計画以外にそれを書く行政のツールを私が思いつかないんです。ほかにあればそっちでというのは当然ありますし、区ごとでやられてもいいんですが、もしないのであれば、そういう施策の整理というのは先々いろいろな仕事において役に立つのではないかと考えます。ご検討いただければと思います。

○事務局（藤本） 今の件につきましては内部でも非常に議論があったところございまして、早良区さんの場合はこの形でということで、三つに分けて検討されているところです。ただ、ほかの区については、実際、ゾーンをどこで切るかとか、あと、それぞれの区の中で話をしたときに、自分はどっちだとか、だれとだれみたいな話になったりするので、ゾーニングなりゾーンごとの設定がなかなか難しいところもございまして。こういった部分についてはという記述で書けるところについては今もある程度書かれているかとは思いますが、ゾーンを明示しにくいところが多いということで、今の段階ではこのような形にさせていただいています。実際にそういうゾーンごとのまちづくりについての考え方みたいなものは大事ですので、そこについても宿題とさせていただきまして、可能であれば考えたいと思いますが、ひょっとしたら諸般の事情によりこのままいかせていただくかもしれませんので、先生、よろしくお願いいたします。

○星野部会長 いずれにせよご検討ください。

委員、どうぞ。お願いします。

○委員 話が戻るかもしれませんが、中央区以外のすべて区の現状と課題として高齢化の問題の記載がある。一番最初の区のまちづくりの目標の市のまとめの中にも高齢化というのがあって、10年後はどういうふうになっていくかというのがここで書かれていますけれども、東区にかいている年齢階層別の人口の図が一番見やすいというか、ずらしていけば10年後を想定できる。高齢化が進む、また少子化ということで働き盛りが減ってくる、だから若い人たちを入れていきたいということが冒頭にあればいいのかな

ということで、区のまちづくりの目標のページに東区のこのグラフを全区統一して載せて、人口の現状が各区の概要のところにおさまっていれば見やすいのかなという提案だけさせていただきます。

以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。たしか総会の際に5歳ごとの区分にということがあつてこういった図が出てきたんですけれども、これはたしかに見やすいですね。各区が少子高齢化ということを問題視しているのであれば、同じチャートで出していたらくことをぜひご検討いただきたいと思います。

それでは、今日、皆さんからコメントをいただいたので、どういうものができ上がってくるか楽しみに待ちましょう。区のまちづくりの目標についてはこれでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○星野部会長 では、この段階ではお認めいただいたということで、どうもありがとうございました。

それでは、時間が限られていますけれども、委員のお二方から質問状を出していただいていますので……。藤本課長、結局、お一人でよろしいんですか。

○事務局（藤本） お一人です。

○星野部会長 わかりました。では、せっかくいただいたご意見ですので、藤本さん、それについてご紹介ください。

○事務局（藤本） 参考様式、意見票ということで配らせていただいております。

「基本計画の前提」を外していいのではないかというお話で、それは先ほどご説明したとおり、「基本計画の前提」のところは総論の後ろのところを持っていった形にしております。

また、「基本計画の前提」の文言を基本構想のほうに入れたらどうかというご指摘をいただいたところですが、実際に今現在の危機感でこの10年間を見てということを考えていたところですので、とりあえずこれについてはそのままとさせていただきます。

その次は、分野別目標について、当初は1から4が生活で5から8が成長という線引きをしたというご認識をいただいておりますが、そこについてはどちらを中心にとということで、今、実際に明確に線引きした形でなく議論を進めさせていただいていると認識しておりますから、それでよろしいかと思っております。

あと、成長分野の本社機能の進出企業数について、国内企業と外国企業、外資企業それぞれ別に目標設定をしたらどうかというご指摘をいただいておりますが、こちらについては外資企業とか国内企業とをどう分けていくか等の問題もございまして、これはまだ検討中ということです。

○事務局（経済観光文化局） 経済観光文化局です。今のは総合計画の47ページの施策6-2のところのご指摘でございまして、この点については、目標設定として国内、国外の全体の目標数を示しておりますけれども、今までの経過を見ますと、結果としては大体7対3ぐらいで、約3割が外国・外資系企業です。これを分けて出すこと自体は外国企業に対しても市として積極的にやっているんだという見え方になりますから、それは前向きに検討していきたいと思えます。

数値としては、平成20年以降では、企業数で134社、そのうち7対3ぐらいの割合で外国企業、また、雇用者数につきましては、8,705名のうち外資系企業で743名という数字がありますので、こういったものも前提にしながら、総務企画局と調整を図ってきたいと思えます。

以上です。

○星野部会長 ありがとうございます。

ご質問はそれでよろしいですか。福岡市に様々な課題があるとするれば、具体的にご提示いただいて、その解消を考えるというプロセスをとりたいと思えます。委員の方は今回もご質問いただきましてありがとうございます。

それでは、毎回、定時の終了にご協力いただきましてありがとうございます。また今日も6時になりましたので、これで終わりたいと思えます。どうもお疲れさまでした。

閉 会